

**リバーエレクトック株式会社**  
**2007年3月期 中間決算説明会**

**2006年11月29日**

---

## 会社概要

(取締役総務本部長 秋山正雄)

---

## 2007年3月期 中間決算概要

(取締役総務本部長 秋山正雄)

---

## 2007年3月期 通期見通し

(代表取締役社長 若尾富士男)

---

# 会社概要

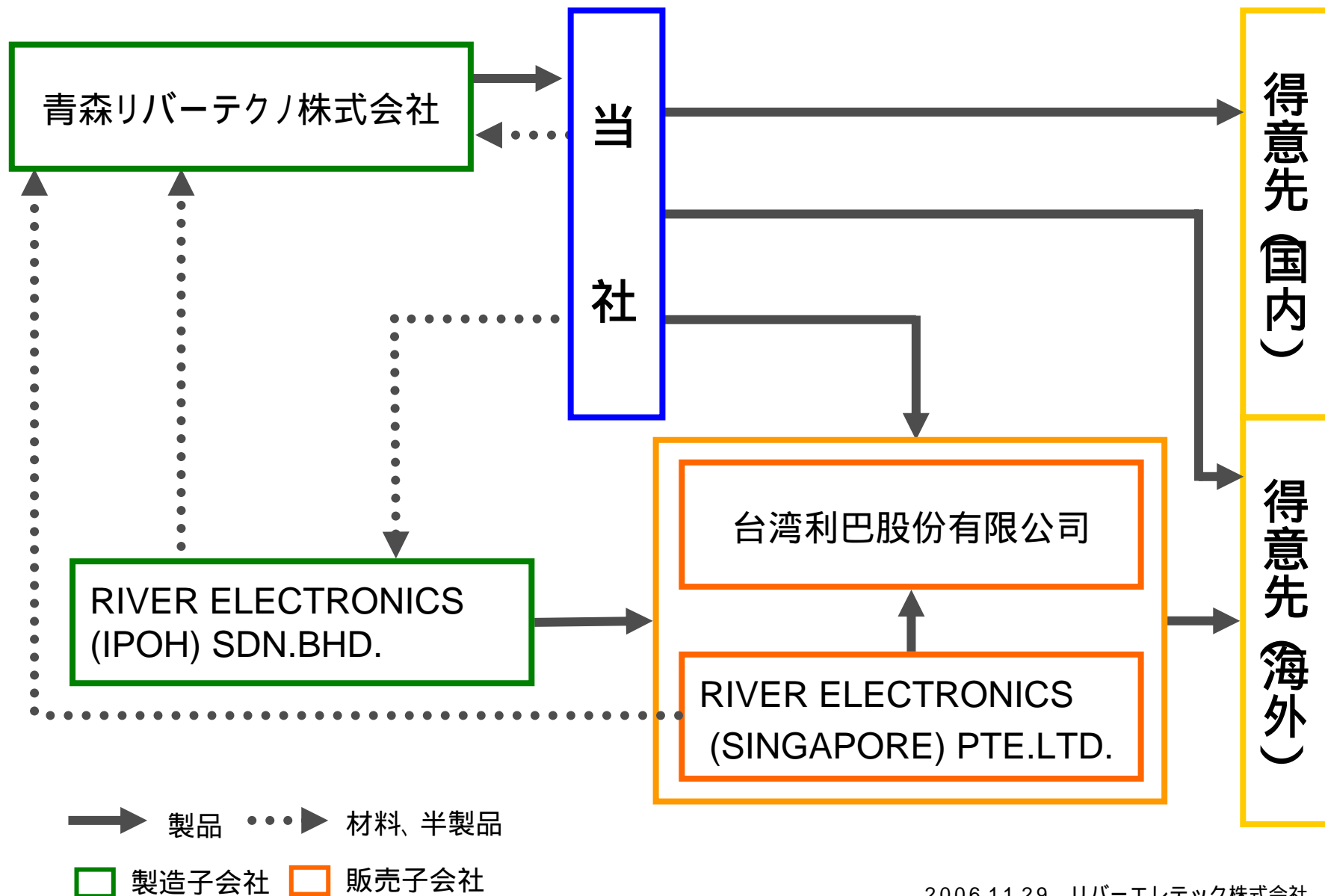
## 会社概要 (2006年9月末現在)

- 社 名 : リバーエレクトック株式会社 (証券コード6666)
- 市場・売買単位 : JASDAQ(マーケットメイク銘柄)・100株
- 所在地 : 山梨県韮崎市富士見ヶ丘2丁目1 - 11
- 設立 : 1951年3月9日
- 事業内容 : 電子部品の製造販売
- 資本金 : 1,070百万円
- 売上高 : 8,045百万円 / 7,385百万円 (連 / 単、2006年3月期)
- 経常利益 : 476百万円 / 323百万円 (連 / 単、2006年3月期)
- 社員 : 840人 / 122人 (連 / 単、臨時・派遣を含む)
- グループ会社 : 青森リバーテクノ株式会社  
RIVER ELECTRONICS (SINGAPORE) PTE.LTD.  
RIVER ELECTRONICS (IPOH) SDN.BHD.  
台湾利巴股份有限公司

# 当社グループの事業の内容

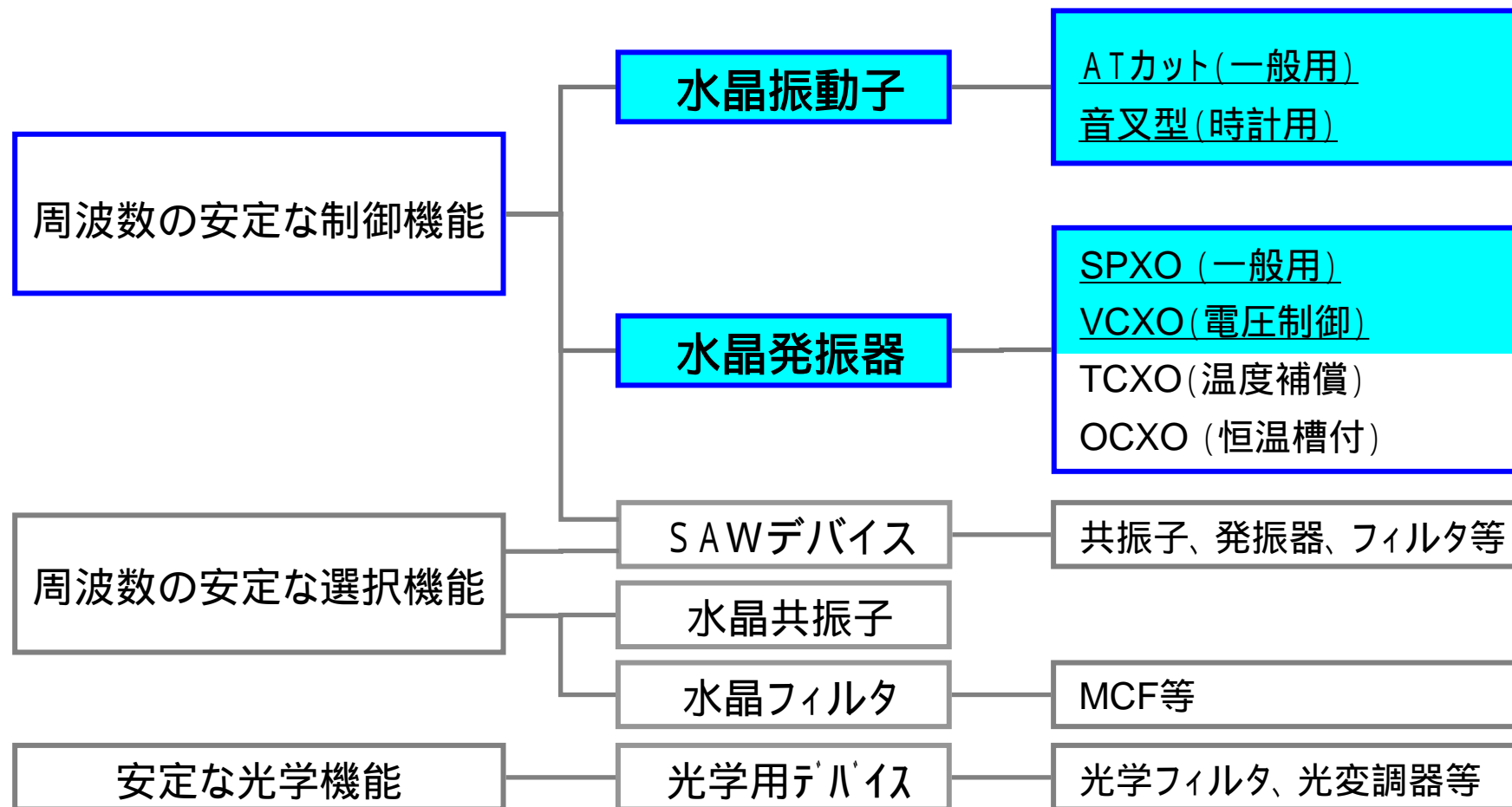


# 事業系統図 (2006年9月30日現在)



# 水晶デバイスの種類と当社取扱製品

SMD (表面実装) タイプの小型製品に特化



■ は当社グループで製造・販売をしている水晶デバイス

SMD: Surface Mount Device

# 2007年3月期 中間決算概要



# トピックス

**無線モジュール、車載市場、PC関連の好調さを  
受けて水晶製品需要が拡大**

無線モジュールは、Bluetooth・無線LAN関連好調  
車載は安定受注維持  
PC関連は海外メーカー受注拡大

## 売上高

小型水晶製品(3225サイズ以下)を中心に受注が好調

## 利益

水晶製品販売数増加と製造原価削減効果より販売価格の下落  
による利益減少を吸収し前年同期比で大幅改善

# 連結損益計算書

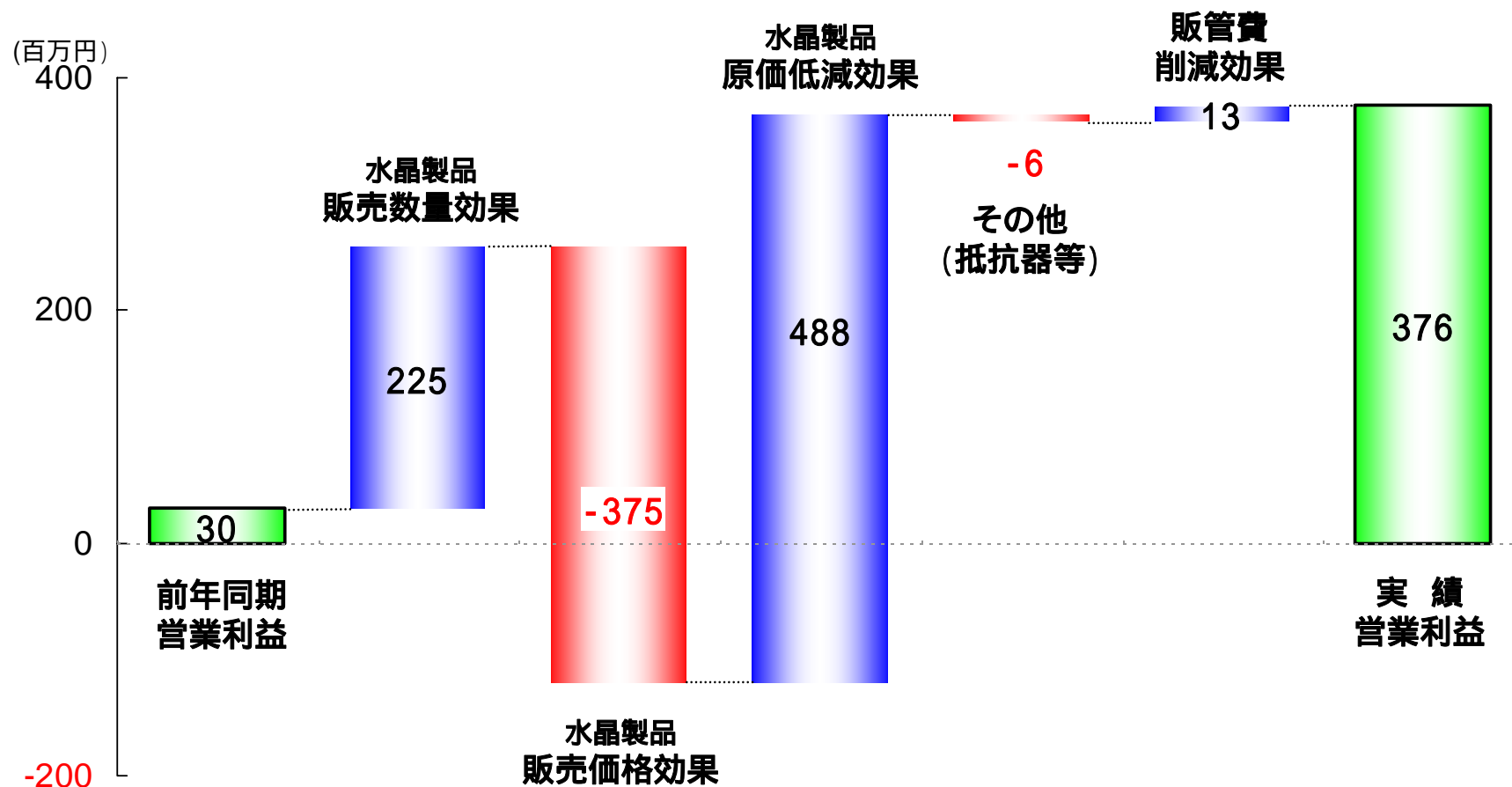
売上高は前年比15%増、売上総利益は前年比39%増と増収増益となり、計画も上回る。

(百万円)

	前年同期	年初計画	実績	前年比 %	計画比 %	増減要因(前年)
売上高	3,750	4,153	4,302	14.7	3.6	水晶製品23%数量アップ
売上総利益	861	1,122	1,194	38.6	6.4	3225サイズ以下生産数量増加による原価低減効果大
売上総利益率	23.0	27.0	27.8			
販管費	831	828	817	1.6	1.2	固定費削減効果
販管费率	22.2	19.9	19.0			
営業利益	30	294	376	1,130.0	28.0	売上総利益増加と固定費(販管費)をおさえたことによる相乗効果
営業利益率	0.8	7.09	8.8			
経常利益	89	281	380	326.9	35.3	売上総利益増加と固定費(販管費)をおさえたことによる相乗効果
経常利益率	2.4	6.8	8.9			
当期純利益	4	153	222	-	44.7	前年減損損失 5,600万円 上期減損損失 2,000万円
当期純利益率	0.1	3.7	5.2			

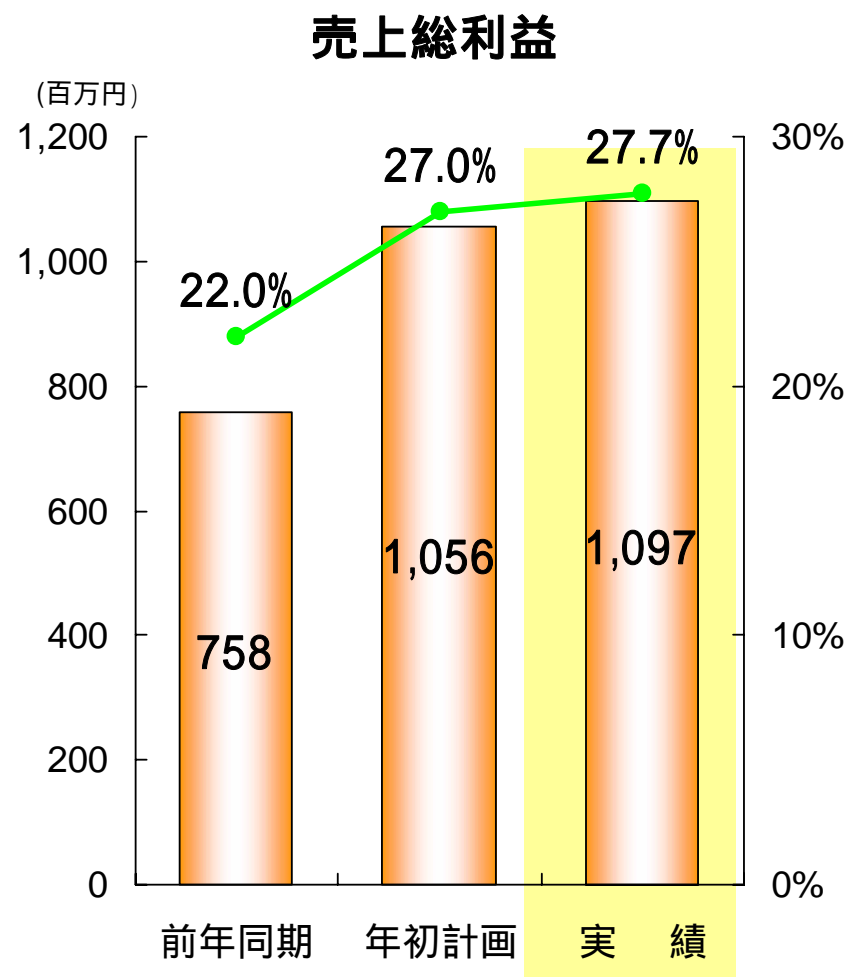
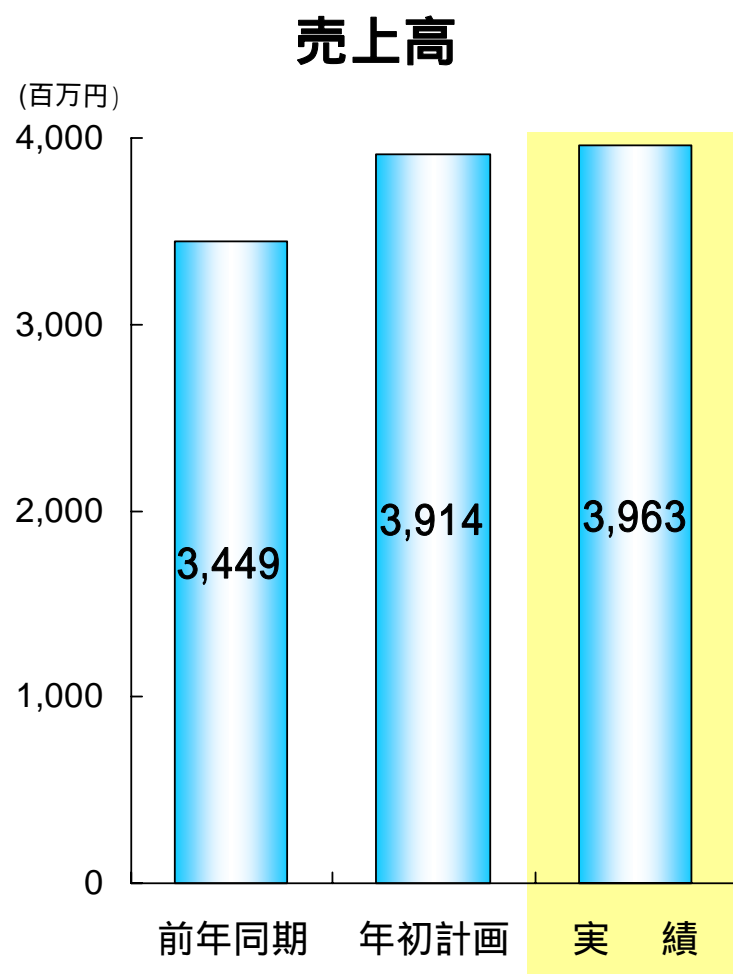
# 営業利益の増減要因

販売価格の下落を販売数の増加および製造原価の低減で補い売上総利益は大幅増加



# 水晶製品

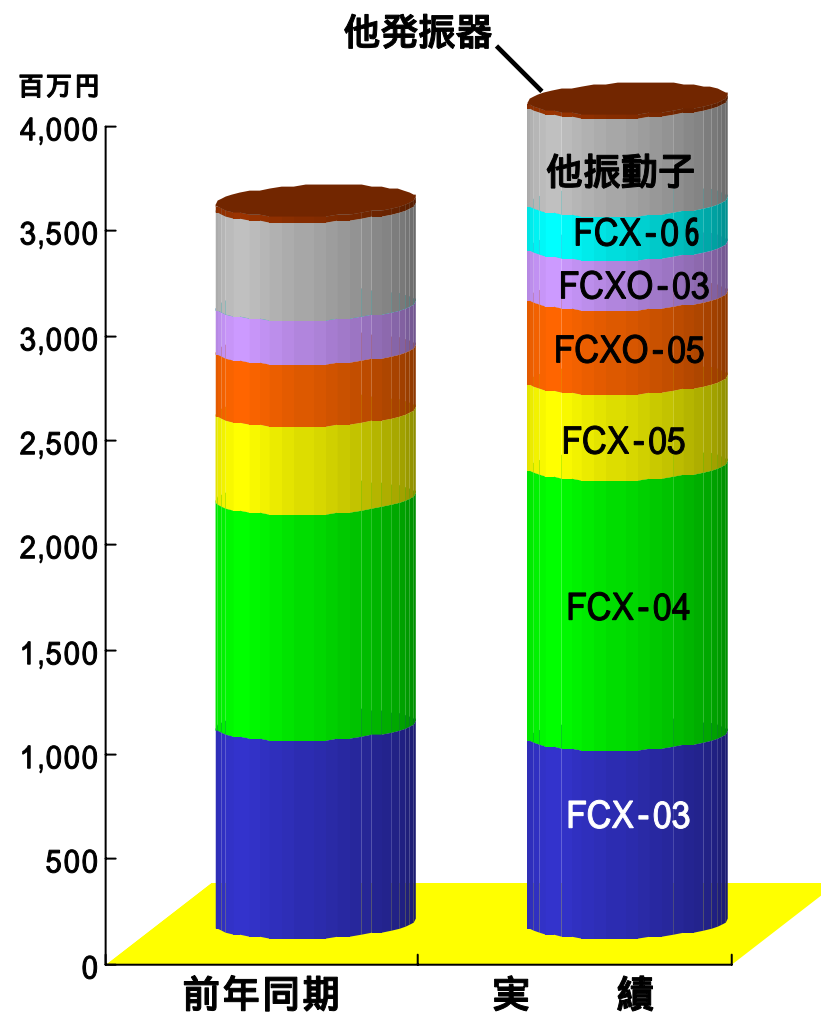
3225サイズ以下の販売数量増加と製造原価低減により、売上総利益は大幅増加



# 水晶製品売上高の構成比(製品別)

前年同期比で23%の販売数増加により売価下落を補い売上高を押し上げた。特に超小型製品(2520【05】サイズ以下)の増加率は著しい結果となった

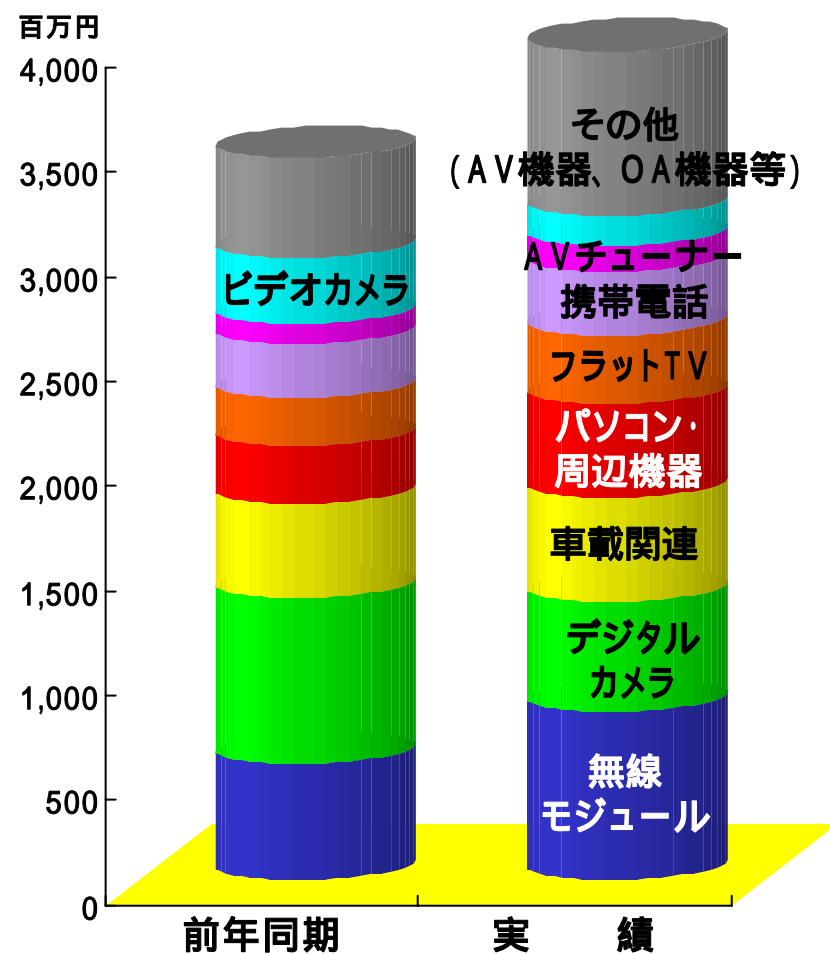
	前年同期(%)	実績(%)
FCX-03	27.6	22.8
FCX-04	31.4	32.4
FCX-05	12.1	10.4
FCXO-05	8.5	10.1
FCXO-03	6.0	6.1
FCX-06	0.1	5.2
他振動子	13.7	12.4
他発振器	0.6	0.6



# 水晶製品売上高の構成比(アプリケーション別)

売上高増加(前年同期比15%)の主たるアプリケーションは無線モジュール、車載関連、PC関連およびフラットTV

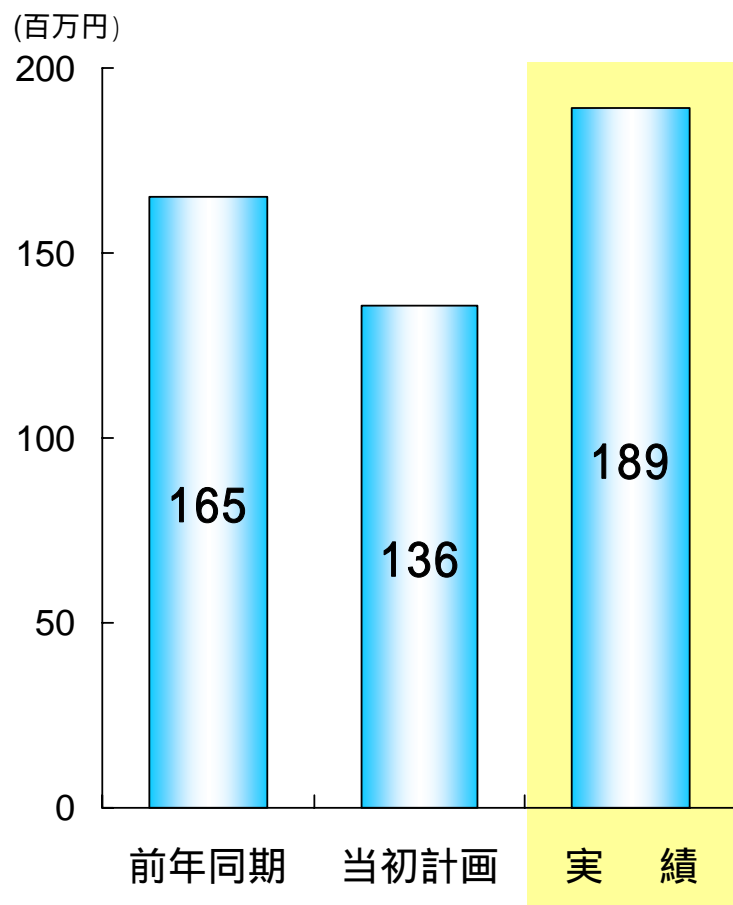
	前年同期(%)	実績(%)
無線モジュール	16.2	20.4
デジタルカメラ	22.9	13.1
車載関連	13.0	12.6
パソコン・周辺機器	8.0	11.3
フラットTV	6.7	8.3
携帯電話	7.6	7.7
AVチューナー	2.6	3.7
ビデオカメラ	9.3	3.1
その他	13.7	19.8



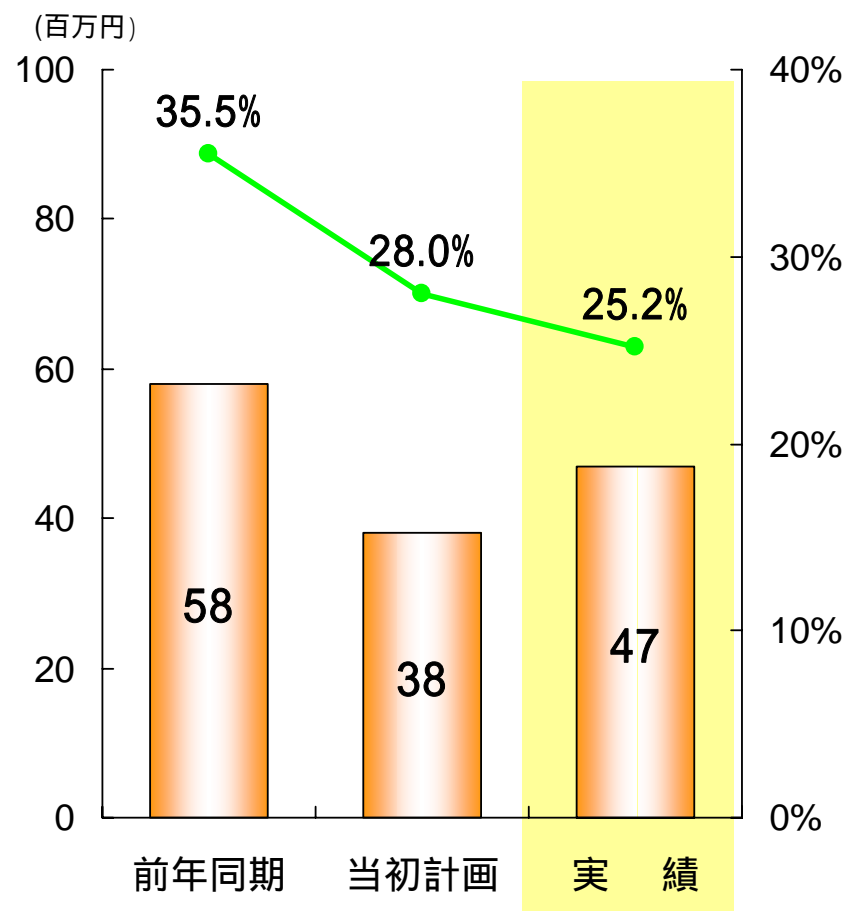
# 抵抗器

フラットTV、AV機器向けが好調であったが、製品の構成比の変化により利益率は低下

## 売上高



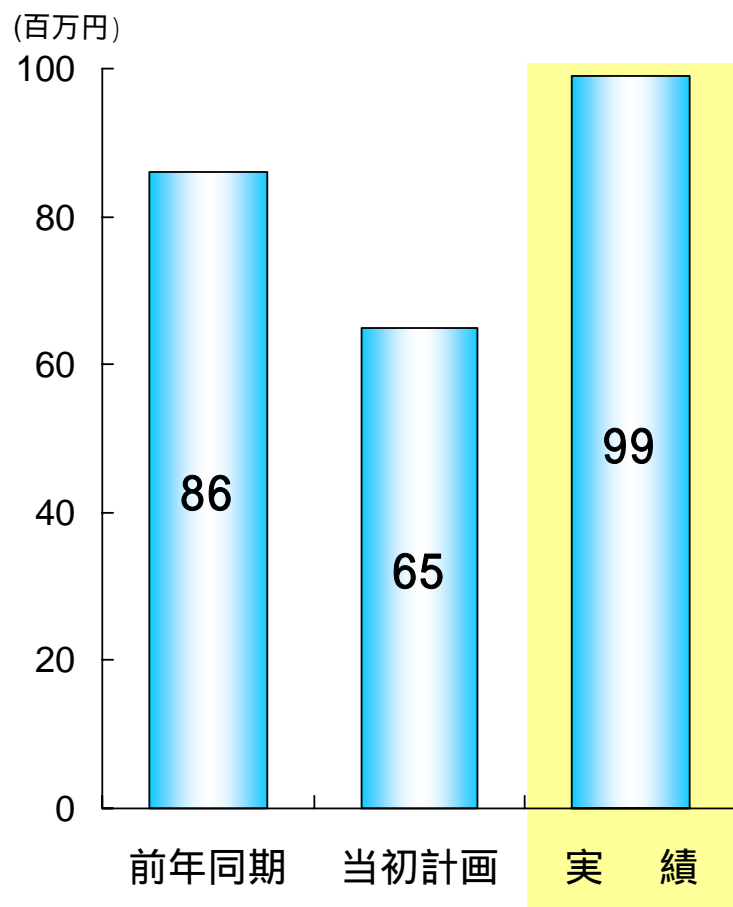
## 売上総利益



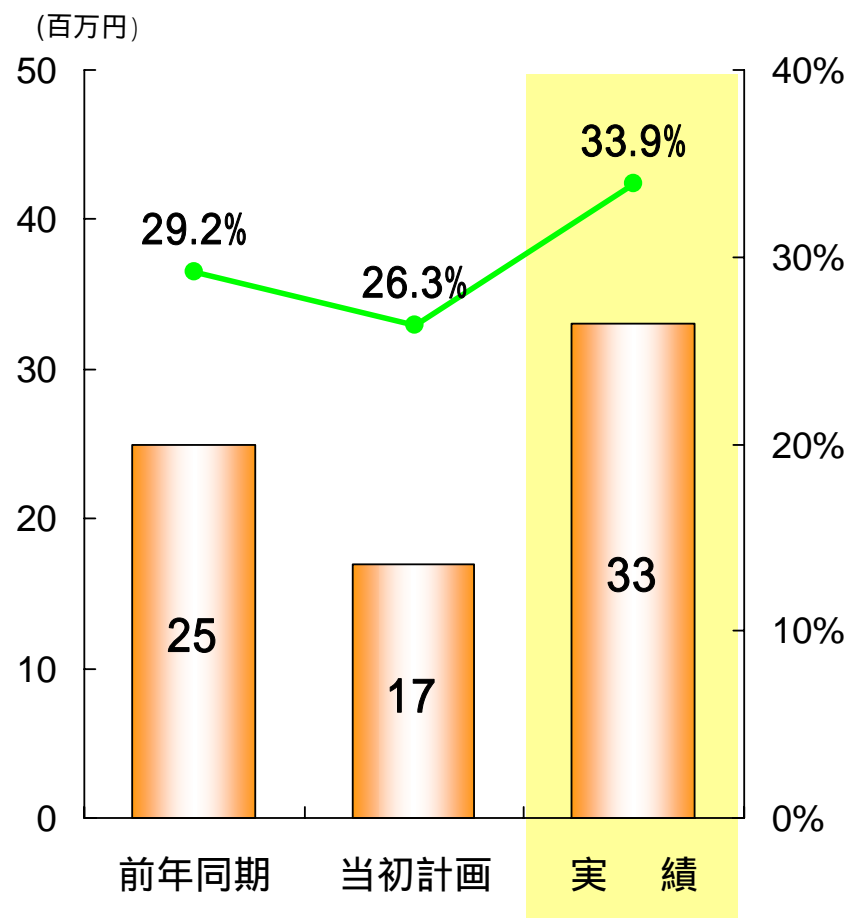
# インダクタ

## 電球形蛍光灯の受注好調により収益が改善

### 売上高



### 売上総利益





# 連結貸借対照表

売上好調により売上債権が増加するとともに、積極的な投資により固定資産、借入金が増加

(百万円)

	前期末	実績	前期末差	増減要因
流動資産	5,537	6,182	644	売上高増による売上債権の増加
固定資産	6,398	6,451	52	機械装置及び運搬具117百万円増加
資産合計	11,941	12,636	695	
流動負債	3,015	3,595	580	設備関係支払手形209百万円増、短期借入金・1年内長期借入金173百万円増加
固定負債	1,031	1,073	42	長期借入金60百万円増加
負債合計	4,046	4,669	623	
資本 + 少数株主持分 (純資産)合計	7,580	7,967	72	
負債及び純資産合計	11,941	12,636	695	

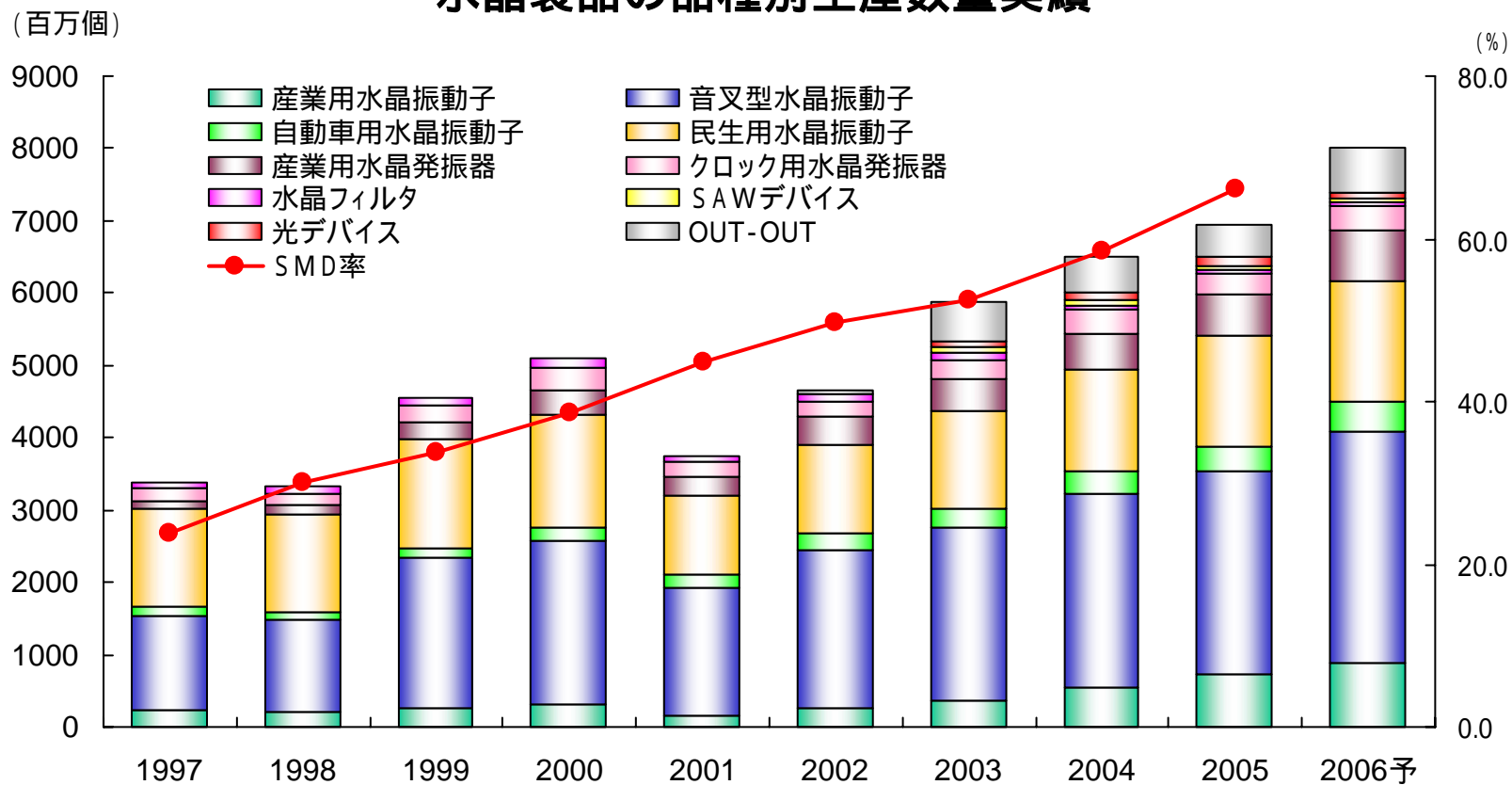


# 2007年3月期 通期見通しについて

# 事業環境

生産数量は堅調であり、成長率も高い  
2006年度予測80億個(前期比115%)

## 水晶製品の品種別生産数量実績

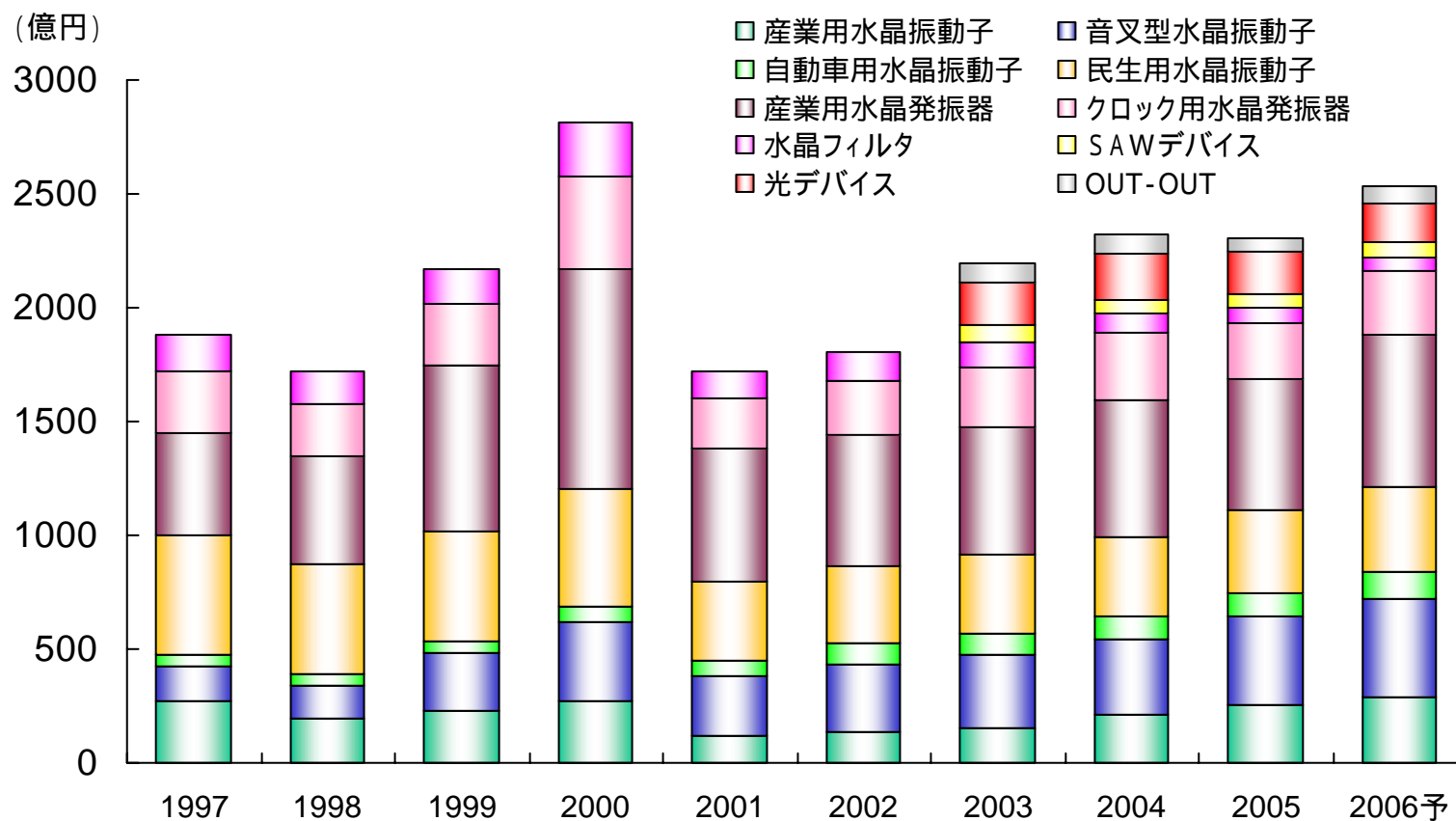


(注) 日本デバイス工業会資料より。

# 事業環境

生産数量と同様、好調な需要を反映してプラス成長に  
2006年度予測2,533億円(前期比110%)

## 水晶製品の品種別生産金額実績



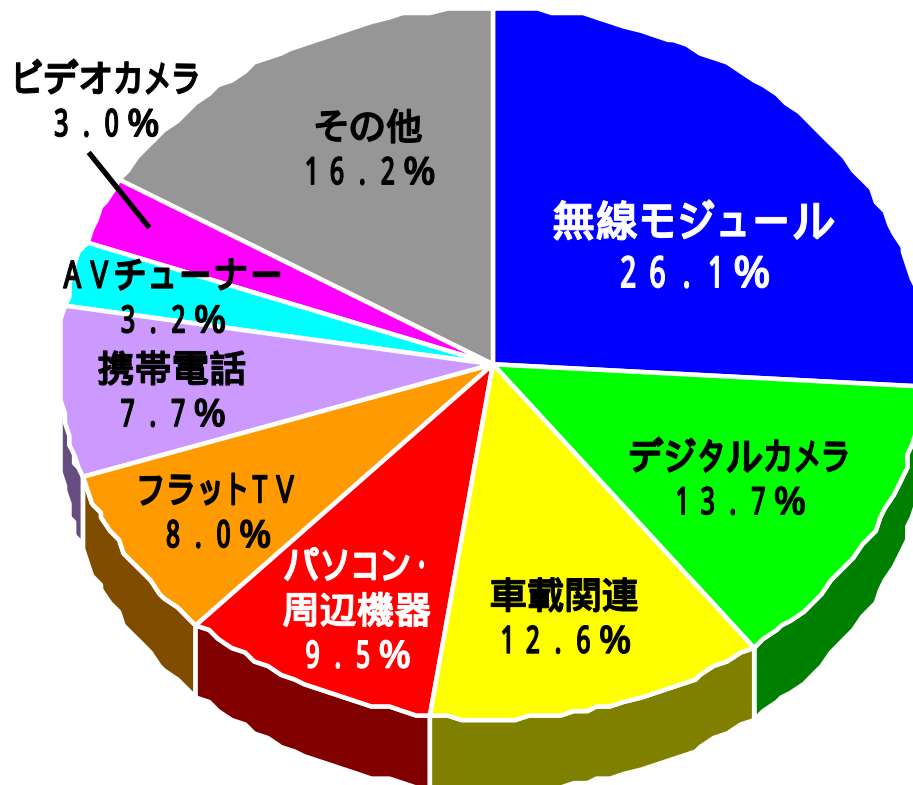
(注) 日本デバイス工業会資料より。

# 販売ターゲットのFocus & Deep

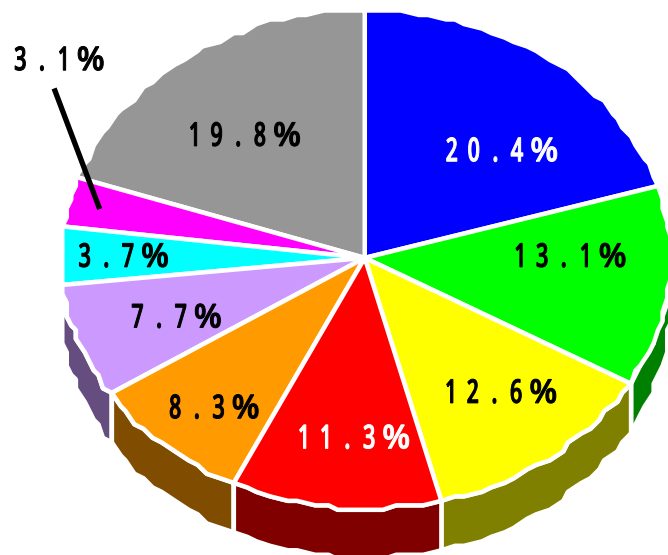
通期予想で無線モジュール向けが水晶製品売上の26%

## 水晶製品アプリケーション別売上高

通期予想

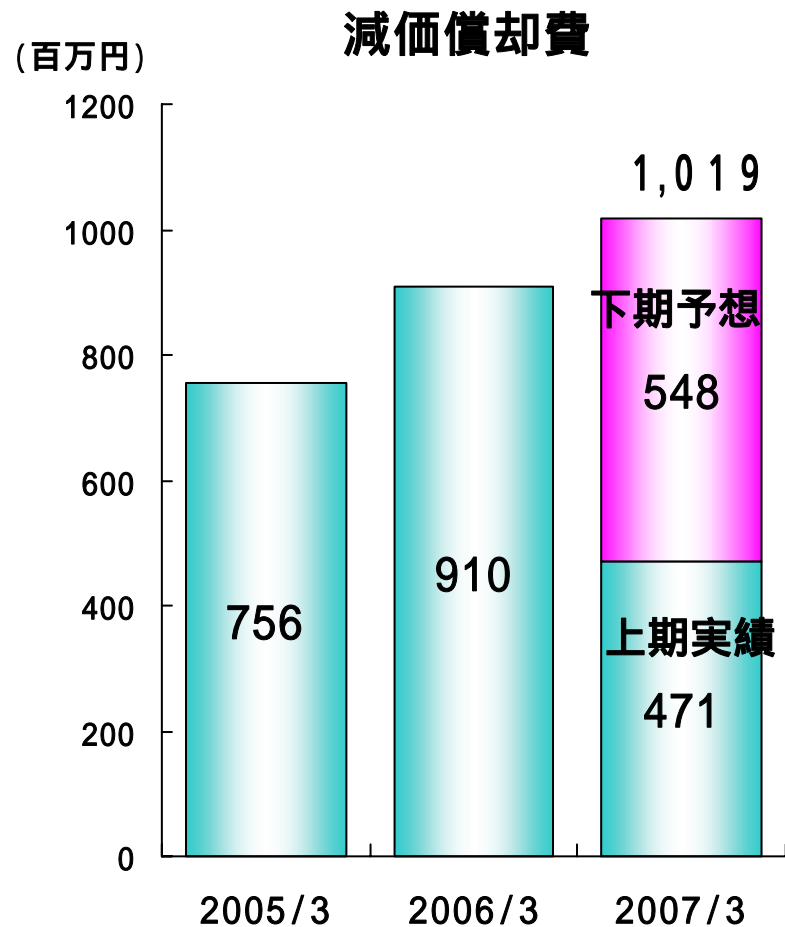
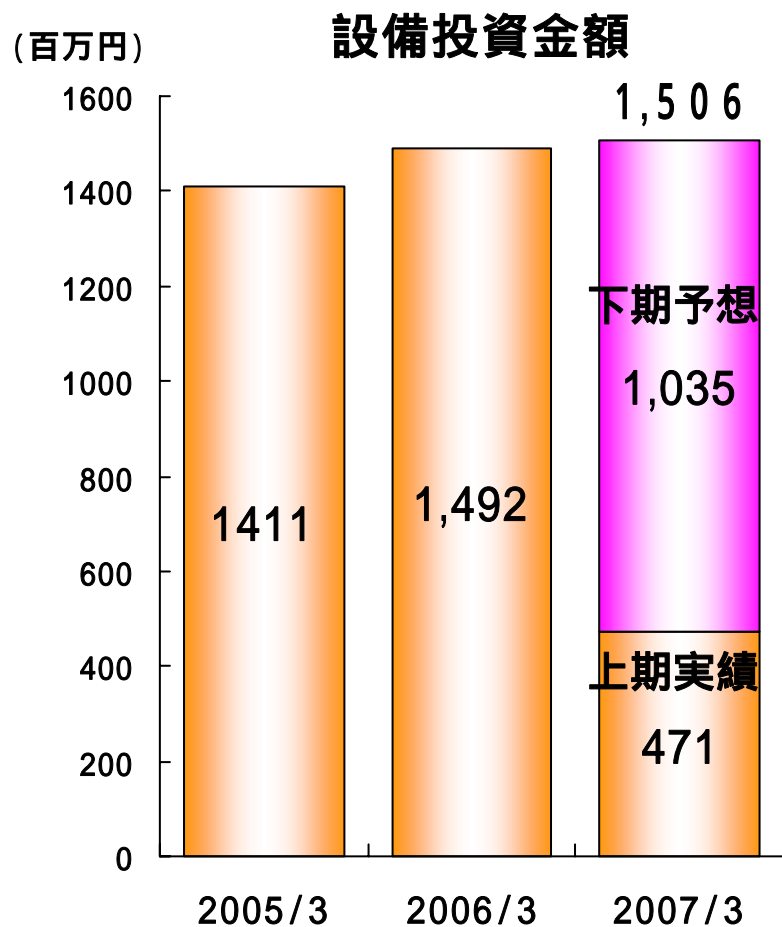


上期実績



# 設備投資/減価償却費

設備投資は計画通りに推移。通期においてもほぼ計画どおり。



# 投資計画

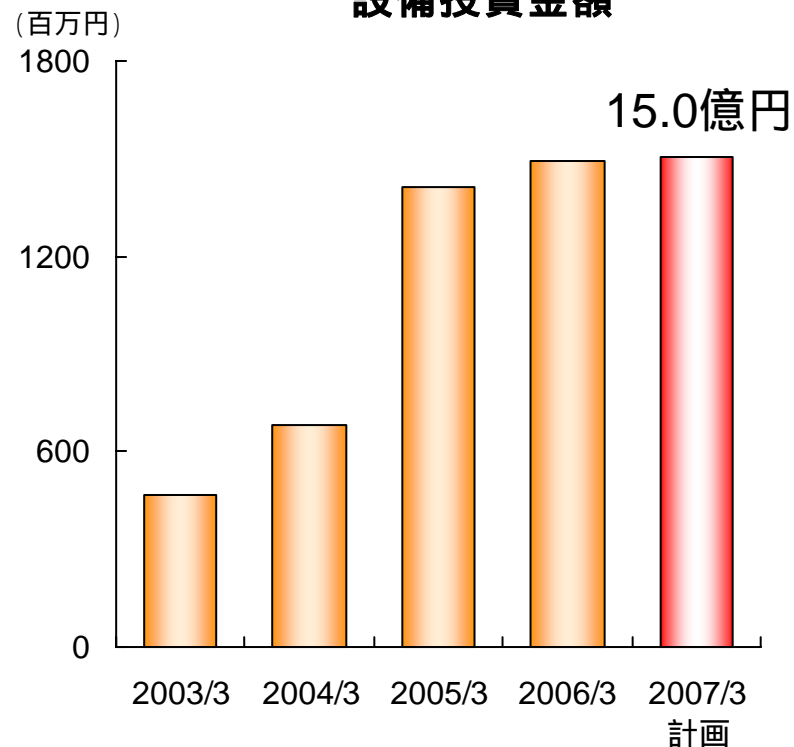
投資金額は前期なみ

現在の月産2000万個から期末で月産2100万個体制へ

超小型水晶製品の生産増強



### 設備投資金額



# 投資計画

## 青森リバーテクノにおけるクリーンルームの拡張



平成19年2月完成予定

延べ床面積約510m<sup>2</sup>(予定)

既存小型水晶製品及び新製品の生産能力拡充



# 投資計画

水晶製品製造工程の海外移設 計画どおりの順調なスタート



RIVER ELECTRONICS (IPOH) SDN.BHD.において2006年7月より水晶片前工程の一部生産を開始  
来期以降の原価改善に大きく寄与する見込み

## 2007年3月期の業績見通し

売上高	88億5,176万円
営業利益	7億7,539万円
経常利益	7億4,862万円
当期純利益	3億8,166万円

下期計画レート US \$ = 110円  
為替影響額(1円変動)は、売上高14百  
万円、営業利益11百万円

# RIVER

One and Only Creator

このプレゼンテーション資料には、2006年11月29日現在の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれております。世界経済・競合状況・為替・金利の変動等にかかわるリスクや不確定要素により実際の業績が記載の予測と大幅に異なる可能性があります。